

1 この科目の構成について

教 科	英語	科 目	コミュニケーション英語Ⅲ	単 位	5単位
対象コース	カレッジコース	対象クラス	3年1組		
使用教科書	Big Dipper English CommunicationⅢ（数研出版）				
使用副教材	ユメタン（アルク）				

2 この科目の目標・学習内容・学習方法について

学 習 目 標	—この科目を学習して何を身に付けてほしいのか—
コミュニケーション英語Ⅰでは4技能を統合的に伸ばすために、受身に情報を得るだけではなく、発話やライティングを通して発信することが求められた。またⅡでは目的に応じて読み方を変えたり、よりまとまった量の文章を書いてきた。コミュニケーションⅢでは今までの学習経験を踏まえて、社会生活におけるコミュニケーションに活用できるスキルや姿勢を習得することを目指す。	
学 習 内 容	—この科目で学習する大まかな内容—
学習指導要領の「外国語を通じて言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う」に鑑み、より英語を用いて生徒が活動をする授業を目指す。音読から、ディクテーション、暗唱まで展開し、使える語彙やフレーズを増やすことを目指す。また本文の内容を規定語数で要約したり、それを音読、暗唱するなど読んだもの、書いたものをもう一段高いレベルでの発信につなげていく。	
学 習 方 法	—この科目を学校と家庭でどのように学習すればいいのか—
(1) 学校 ①しっかりと音読する。 ②アクティビティに参加し、技能を高める。 ③さまざまな活動の中で、情報や考えを的確に理解し、さまざまな手段で適切に伝えるようにする。 (2) 家庭 ①教科書を音読し、暗唱までできるようにする。 ②次の Lesson に入る前に音読し、どこを学ばばよいかしっかりと確認しておく。 ③日々出される課題を空欄を作らないようにしてしっかりとこなす。	

3 この科目の評価方法について

評 価 方 法	—何を使って評価するのか—
評価の観点とは「定期考査」「課題提出状況」「授業への参加」「小テストの成績」の4つの合算で評価する。定期考査は期間内の学習内容についての理解度を見る（6割）。課題提出状況では日々の課題への取り組みの内容を見る（2割）。小テストは週1回のユメタンテストの平均点が反映される（1割）。また授業への参加は出席率はもちろん、授業に取り組む姿勢、情報を理解し、英語で伝える姿勢を評価する（1割）。	
評価における定期考査の割合	
60%	

4 この科目の評価の観点について

評 価 の 観 点	—この科目の学習内容はどのような基準で評価されるのか—
(1) 関心・意欲・態度 英語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ること（授業への参加として評価）	
(2) 思考・判断 自分の知識や意見を英語で伝えることができること、また他の学習者のものも理解することができること（授業への参加として評価）	
(3) 技能・表現 英語を使って、積極的に表現し、またその技能を洗練させるための努力を継続的にしていること（課題提出、授業への参加として評価）	
(4) 知識・理解 一定期間に学習した内容をきちんと理解し、有形無形の手段で表現できること（定期考査、小テストの成績として評価）	

年間学習計画				—この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか—				重視する評価の観点			
期	月	学 習 の 項 目		学 習 の 内 容				関	思	技	知
1	4			1 Lesson 全体の内容をスラッシュリーディングと T&F を利用して概要をつかむ（1 時間） 2 Lesson 内に出てくる文法項目や熟語、語彙などを一括演習で行う（1 時間） 3 指示語や、ディスコースマーカーに注意をしながら音読、ディクテーションをする（2 時間） 4 Part 毎に要約を作成し、レッスン全体の要約を作る（1 時間） ・短い文を読んで、20 語程度の要約を作成する ・センター試験を題材に言い換えの表現を見つけ、お互いに発表する。							
		Lesson1 Mile High (St) 表現を変えて同意の内容を表す		・時間の流れを読解の手段として速読に挑戦し、T&F で内容の理解度を測る				○		◎	
		Lesson2 The 55-Year Race (St) 時系列で並ぶ内容を理解する		・昔と今を比較することで現在われわれに起こっている問題を考察する。						◎	
		Lesson3 Chew and Chew Some More (St) 対比関係を利用して、より内容を深く理解する		・咀嚼することと健康の因果関係に関する英文を読んで、より理解を深める						○	◎
	5	Lesson4 Online Word-of-Mouth 第 1 回考査		・くだけた表現に触れることでの確に内容をとる。この際黙読で内容を理解する。 ・ショートターム形式や広告形式の英文を読んで、内容をとる練習をする						◎	
	6	Lesson5 After the Flowers (St) 因果関係を捉えてまとめる		・教科書の内容を入り口にして、3 人一組でそれぞれが分担してタンポポ、スミシ、オオバコについて書かれてある英文を準備してきて、ほかの二人に読んでもらい、内容をまとめる。					○		○
	2	Lesson6 India's incredible Industry (St) 英文中に追加、列挙の表現方法を確認する		・スラッシュリーディングと T&F で内容理解した後、リピーティング、シャドーイングを行う。 ・センター試験の第 3 問形式や、文整序の問題を追加や列挙、因果関係などを利用して解く問題演習を行う。						◎	
		Lesson7 World Weather (St) スキャニングによる情報取得		・グラフや本文からほしい情報を取り出し、発表する。 ・グラフや図表から情報を読み取って、内容を英語で表現する問題に取り組む					◎	○	
		Lesson8 Alfred Nobel: A Person of Peace [道徳教育を行います] (St) 譲歩表現の方法を確認し、英文上で表現する		・伝記を題材として速読、リピーティング、シャドーイングを行い、有効なフレーズの習得を目指す。 ・ノーベル賞の起源に関する英文や同様な境遇にあったチャップリンの伝記を読んで知識を広げる。						○	◎
	9	Lesson9 Great Migrations 第 2 回考査		・それぞれの小項目について 20 語程度で要約を作る ・最近起こっている問題を元に人間と動物の共生はどうあるべきかを考える。				○	◎		
		Lesson10 Art on Display		・パンフレットからほしい情報を読み取る ・同様の問題をセンター試験の過去問等を利用して取り組む						◎	○
		Lesson11 Thinking Outside the Box		・速読や T&F で内容を確認する。また発想の転換についての体験談を発表する ・3M 社のポストイットや味の素、写ルンです、ほぼ日手帳など常識を見つめなおすところから生まれた大ヒット商品の話を英文で読む				◎			○
		Lesson12 She Sells Seashells by the Seashore		・文法項目に注意をしながら、しっかりと精読する ・現代の化石の保管における土の大切さに関する英文を読んで、最新の化石分析に触れる。						◎	○

10	Lesson13 Antarctica by Cruise Ship	・ウェブ上の広告からほしい情報を読み取る ・同様の問題をセンター試験等を利用して取り組む			◎	○
	第3回考査					
	Lesson14 Keys to Winning	・速読や T&F を通して内容読解を行う。フレーズリーディング、リピーティング、シャドーイングを通して、英文の反復を行う。 ・トップアスリートのメンタルトレーニングに関する文献をよんで、自分のメンタル向上について考えて、話し合う センター試験の第 4 問形式や伝記、メンタルトレーニング等にかかわる文章も出題する	◎	○		
	Lesson 15 The Immortal Jellyfish	・速読や T&F、英問英答を通して内容を理解し、要約を作成する ・単元内のみならず生物に関するさまざまな用語を調べて覚える			○	◎
	Lesson16 Miracle on the Hudson (St)新聞を読む	・速読やスキミングを使って概要把握、要約文作成を行う ・新聞記事を読み、グループでどんなことが書いてあったか発表する	◎	○		
11	[道徳教育を行います]					
	Lesson17 Rude Japanese!	・本文をスラッシュリーディングし、T&F や英問英答で内容を理解する。 ・文法、熟語、語法などを本文を利用して確認する。 ・要約を作成する ・日本人と外国人の違い、外国から見た日本人などマークピーターセン等の書物から抜粋して読む。	◎	○		
	11月中旬よりセンター対策演習を行う予定					

				重視する評価の観点			
				関	思	技	知

年間学習計画		—この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか—		重視する評価の観点			
期	月	学 習 の 項 目	学 習 の 内 容	関	思	技	知
	1						